

～推薦B方式受験生へ～

## ☆☆学部・学科からのメッセージ☆☆

学部・学科の先生方から推薦B方式を受験するみなさんにメッセージがあります。このメッセージを参考にしながら勉強に取り組んでください。

※面接の形態等は、あくまでも従来の基本方針を示したもので、今後の試験のあり方を確約するものではありません。

### ☆仏教学部☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と1次試験合格へのポイント
各種資格取得のためには、目的に向かって意欲的に勉強することが必要であると思います。入学後は、資格取得の時に発揮した力を仏教の学習・研究にそそいでくれる人の受験をのぞみます。また曹洞宗で得度した人については、生涯にわたって「教え」にしたがって生きていこうという強い意思をもって受験することをのぞみます。1次試験については「入学試験要項」に記された条件を満たしていることが必要です。
② 面接形態・面接の評価ポイントについて
仏教学部の専任教員が2人1組で面接を担当します。まず志望理由や入学後の勉学に関する目標・意欲を確認します。その後、国語(2問)、英語(1問)、社会(1問)の問題を出します。その際、出題用紙を見ながら口頭で答えていただきます。国語や英語の問題は、短文・成句などを音読し、その意味を説明するというものです。社会科の問題は、歴史上の重要な人物や出来事あるいは著作などについて質問します。高校で勉強する内容の範囲で出題します。評価のポイントは、志望動機や目標などをはっきり述べることができるかどうか、国語・英語・社会科の問題については7割以上回答できるかどうか、というところにあります。
③ B方式の受験生に期待すること
各種資格を取得した人は、積極的にみずから学ぶことのできる人だと考えます。入学後はその積極性をぜひ仏教の勉強にむけていただきたいと思います。また曹洞宗で得度した人は、一仏両祖の教えを生活・人生の指針とすることを決意した人だと考えます。入学後は学習・研究に励み、自身の信仰を深めるとともに将来の曹洞宗を担う自覚をもっていただきたいと思います。
④ 受験生へのメッセージ
入学後、強い意欲を持って仏教を学ぶ人、ぜひ受験してください。

### ☆文学部国文学科☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と1次試験合格へのポイント
集中力を持って一つのことに打ち込み、やり遂げた経験を持つ受験生を求めます。全国に通用する成績をおさめていること、さらに特別な能力や特殊技能を持っていることが必要です。
② 面接形態・面接の評価ポイントについて
個人面接形式で複数の面接担当者が、国語や国文学に関する基礎的知識を問います。また、高校における学習・生活状況および大学で学びたい内容について尋ねます。得意分野についても尋ねます。

③ B方式の受験生に期待すること
特別な能力や特殊技能を持つ受験生が、入学後に他の学生達に良い刺激を与えることを期待しています。大学では国文学を学ぶわけですから、高校の授業で学習した国文学史、古典文法の知識は最低限身につけておく必要があります。また文学が好きで、国文学を研究したいという意欲を持っていることを望みます。
④ 受験生へのメッセージ
国語の教科で学習した知識を身につけておくことは当然として、国語の教科書で学習する文学作品以外にも、自分から文学に関心を持って、多くの文学作品を読んでもらいたいと思います。また、広く社会の出来事にも関心を持ち、関連する本を読み、自分で考えるという姿勢を持ってください。

## ☆文学部英米文学科☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と1次試験合格へのポイント
高い英語力を持つことはもちろん、文学・言語・文化など、幅広い興味を持ち、自分で考え、感じることができ、それを表現できる人。英語力に関しては、実用英語検定2級以上に相当する資格取得者の受験を望みます。
② 面接口試と面接の評価ポイントについて
B方式では、英語で面接を行います。英語での受け答えのできるリスニングとスピーキングの力が試されます。
③ B方式の受験生に期待すること
英米文学科は、英米文学および英語学の研究を通じて、人間や人生、言語に対する洞察力と理解力および高い語学力を身に付けて、国際的に通用する人材の育成を目的とします。そのため、それらの基礎となる英語を高校時代にしっかり勉強することが極めて大切です。また、英語だけではなく、高校での基礎的科目を広く勉強することが、大学で学び、視野を広げる大切な基礎となります。
④ 受験生へのメッセージ
充実した大学生活を送り、その後、希望する分野へ進めるように、英語を含めて幅広い分野に関心を持つことが重要です。幅広い読書などを通して、考えを深めることや、友達といろいろな事柄について話をし、コミュニケーション力をつけることも大切です。

## ☆文学部歴史学科(日本史学専攻・外国史学専攻・考古学専攻)☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と一次試験合格へのポイント
推薦B方式では、何らかの分野において傑出した成果を挙げた人、全国レベルで活躍した経験を持つ人を募ります。一次試験は書類審査なので、顕著な業績を挙げたことが確認できる資料がまず必要です。対象は高校在学中の活動に限りませんが、大学での活躍に結びつけてほしいので、その技能は取り組みを維持・継続していることが望ましいです。
② 面接形態・面接の評価ポイントについて
面接試験では受験生1人に対し複数の教員が質問します。自分の挙げた成果とその過程での努力や経験を、ぜひ自分の言葉で伝えてください。それとともに、なぜ歴史学を志すのか、また自分の経験や業績と歴史学科での学業・学生生活がどのように結びつくと考えているのかを知りたいと思っています。

③ B方式の受験生に期待すること
大学で歴史学を勉強することを第一目的とすることを望みます。B方式受験には高度な業績や経験を求めますが、それは必ずしも「歴史」と直接関係しなくてもかまいませんし、入学後その活動を続けることは条件ではありません。重要なのは、その経験やそのために積み重ねた努力を歴史学科での活動にさまざまな形で活かしていくことです。また、そのような経験の持ち主が加わることで、他の学生により影響や刺激を与えてくれることを期待しています。
④ 受験生へのメッセージ
歴史学とは、あらゆる時代と地域における人類の軌跡、すなわち人間社会そのものを相手にする学問です。それだけの鋭敏な感性やみずみずしい好奇心をそなえた、経験豊かで個性あふれる受験生を期待しています。

## ☆文学部社会学科社会学専攻☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と1次試験合格へのポイント
あらかじめ設定してある応募基準に合致していることがなによりも重要ですが、それに加えて、ほかの人とは異なる、きらりと光るユニークな実績をあげていたり、人間的な魅力を実感できる活動などを行っていたりする人に、ぜひとも応募してもらいたいと考えています。1次試験(書類選考)を合格するためには、こうした点が提出書類を通じて十分にアピールされていることが必要になります。
② 面接形態と面接の評価ポイント
面接試験は複数の試験監督者によって対話形式で行います。応募内容についての質問と、社会学を学ぼうとする意欲、社会に対する関心や洞察力が評価のポイントになります。さらに、高校時代の生活体験も判断材料にしています。
③ B方式の受験生に期待すること
一般入試で求められる受験学力にはとどまらないユニークな能力をもった人材として、社会学専攻の学生生活においても、独自のリーダーシップを発揮してくれることを期待しています。社会学を勉強していく以上、人間や社会の諸問題や矛盾について、日ごろから論理的に考え、問題を発見する力を養っておく必要があることはいうまでもありません。さらに、それを自分の言葉で表現することも重要です。
④ 受験生へのメッセージ
学力試験だけでは評価できない個性と能力をもった人には、ぜひとも受験してもらいたいと考えています。豊かな感性とユニークな発想によって、現代社会の問題を意欲的に探求しようという意欲を持った人を期待しています。自分の考えを、分かりやすく筋道立てて文章に表現できる力も培っておいてください。

## ☆経済学部経済学科☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と1次試験合格へのポイント
推薦B方式は、高校で普段の授業に真剣に取り組み、一定水準以上の成績を残すことはもちろんですが、それに加えて在学中に、語学、簿記、情報処理などの専門的資格の取得に注いだ努力を評価の中心に置く入学試験です。とりわけ複数の資格を取得された方、難易度の高い資格を取得された方は、ぜひともその成果をアピールしてください。

② 面接形態と面接の評価ポイント
面接形態は複数の教員による個別面接です。面接評価は、経済学科での勉学に意欲をもって取り組めるような知的好奇心を持っているかはもちろん、上級資格への継続的な挑戦などの入学後における学習計画、取得した資格を前提にどのような将来設計を描いているのかなどを総合的に判断します。
③ B方式の受験生に期待すること
推薦B方式の受験生に期待するのは、大学の授業を理解できる基礎学力に加えて、資格取得のために注いだ努力、そして何よりもそこから得た知識や能力が大学での勉学で発揮されることです。入学後の勉学に備えるためにも、資格取得にチャレンジする一方で、社会や経済の動きにいつも関心を持ち続けてください。
④ 受験生へのメッセージ
著名な経済学者であるアルフレッド・マーシャル(1842-1942)の言葉に、“cool heads but warm hearts”があります。「冷静な頭脳と温かい心」を持ちながら深い思考で多角的に経済を学び、社会のさまざまな問題を解決する方法や考え方を身につけていきましょう。

## ☆経済学部商学科☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と1次試験合格へのポイント
推薦B方式では、高校時代にまじめに勉強に打ち込み、努力を重ねた人物を期待しています。その結果、高校で優秀な成績を修め、簿記・情報・英語などの資格獲得という成果を残し、さらに、部活や委員会等で活躍した方が望ましいです。1次試験では、複数の資格(たとえば簿記と情報を1つずつ)を取得していると、合格しやすくなります。
② 面接形態と面接の評価ポイント
面接は複数の教員による個別面接です。高校での基礎的な知識はもちろん、大学で勉強したいこと、卒業後の進路希望などを質問されます。高校生として関心を持っている社会の出来事は何か、その関心を大学での学びにどのようにつなげ、将来に活かしたいのかを教えてください。明朗な受け答え、礼儀正しさ、自己アピール力も評価のポイントになります。
③ B方式の受験生に期待すること
推薦B方式の受験生は、高校時代に地道な努力を重ねた人物と考えています。大学でもその経験を活かし、自主的な学習に励んでください。さらにゼミナールや部活動等でリーダーとなり、周りの学生を刺激して、より良い学習環境・生活環境を作り出す役割を担ってもらいたいと考えます。また、取得資格を活かし、国家試験等にチャレンジしてほしいと思います。
④ 受験生へのメッセージ
商学科では、我々に身近な経済の動きについて研究します。経済は、我々のより良い生活のための手段です。駒澤大学で充実した生活を送り、より良い社会のことを考えられる人物になってください。

## ☆グローバル・メディア・スタディーズ学部☆

① 推薦B方式にチャレンジしてほしい人物像と1次試験合格へのポイント
本学部は、学問分野の垣根を越え、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に取り組む能力を育み、次世代を担える人材を育成することを目指しています。そのために、出願資格を満たしているだけでなく、実践的な英語力を修得すると同時に、メディアやコンテンツ及びITの本質を理解し、実際のビジネスに活用する意欲を持った方の応募を期待しています。さまざまな資格の取得、活動を通じて、こうした能力・意欲が確認できることがポイントです。
② 面接形態と面接の評価ポイント
面接は、個人面接で、複数の教員が担当します。面接は当学部の特色を理解し、自らを磨いていこうとする意欲があるかどうか、コミュニケーションの能力があるかどうかなどを確認することを主眼とします。英語での質疑を伴う場合もあります。
③ B方式の受験生に期待すること
本学部は、ネイティブの教員を中心とした多角的な授業を通じて、実践的な英語力を養成すると同時に、メディアやコンテンツ及びITの本質を理解し、実際のビジネスに活用する力を育てるためのカリキュラムを組んでいます。こうした授業に積極的に取り組めるような基礎的な学力を身につけておくことを期待しています。
④ 受験生へのメッセージ
日常の学習でも、自分自身の英語能力や国際的経験を、日本社会にどのように還元・貢献できるのか、また国際的あるいはグローバルな領域でどのように活用したらよいかを、常に意識して欲しいと思います。それに加えて、広く政治・経済、文化、社会、情報技術などの分野にも目を向けるような学習態度も身につけて欲しいと考えています。